

NETWORK

since 1983

TERRA

VOL.121

2005 AUG·SEP·OCT·NOV·DEC

8·9·10·11·12

目次 CONTENTS

■特集
ミャンマースタディーツアー報告 4~5

■連載
第三の眼 2
とげずと云ふことなきなり 3
ポツワナ～砂漠のカンバス 9
今日もポレポレ 10

■報告
スリランカ津波支援報告 6
アジアンフェスタ報告 7
国際交流フェスタ報告 8



ミャンマーの南シャン州の農村部の子ども達 「遊びにおいでよ！」

”豊かな日本、食しい日本人!!
じゃーないかな...”

特定非営利活動法人コミネット協会理事
TPAミャンマー委員会委員長 山口 久臣

GDP (Gross Domestic Product) = 国内総生産
という言葉がある。その国の国民全体で年間に稼ぎ出す総売上の事だ。現在、日本は約五二〇兆円とか。世界約一八〇ヶ国全体では、約三五〇〇、四〇〇兆円ということなので、いかに日本が大金持ちかということがよく分かる。また、このGDPをその国の人口で割った一人当たりのGDPが示してある。それによると、例えば、世界全体の二割程といわれている一人当たりのGDPが年間約三八〇米ドル以下の国々がある。(約一〇億人の人々で、一日あたり約一米ドルで暮らしている。)例えば、ミャンマー、カンボジア、ラオス、ベトナムやアフリカ諸国などで、“最貧国”と呼ばれている国々だ。また、東南アジアでは経済的上位にランクするタイは約三五〇〇米ドルである。ちなみに日本はというと世界第2位の約三五〇〇米ドルである。なんとも驚くべき数字だ。二十世紀の後半から二十一世紀の前半は世界の人口爆発問題とともに、この貧富の格差があらゆる社会問題を引き起こすと言われている。世界の南北問題”の時代である。このような数字から現代日本の社会を観てみる時、この金の溢れた物に満たされ過ぎた日本が本当に豊かなのだろうかと考えてしまう。物が人々の心までも駆逐してしまっているのではないか。例えば、低年齢層による社会犯罪や二ト問題、うつ病患者の増加等など。日常生活の中、物は満たされ過ぎ自然から遠ざかってしまった子どもたちは生きる力が弱まり、大人たちはホッとする居場所を失ってしまっている。そんなふうに見えるのではないのか。どうやら人間にとって物も金も足りないくらいの方が心豊かになっていくのではないかとタイやミャンマーの田舎をみて思えるのだが...

世界の平和と親善 地域社会の向上発展



TERRA PEOPLE ASSOCIATION

特定非営利活動法人

地球市民の会 TERRA PEOPLE ASSOCIATION

840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10 TEL 0952-24-3334 FAX 0952-24-7321

E-mail: office@tpa.nk-i.net

ホームページ: http://tpa.nk-i.net

ホームページがリニューアルされました。御覧下さい。



首尾一貫

真の豊かさを求めて

地球市民の会会長 古賀 武夫

皆様お元気ですか。私の方はお陰様でぼちぼちやっています。今年一年はオーバーホールの年らしく、いくつもの病院を回り、三箇所入院もしました。患者として病院を見るのもまた勉強になります。

さて、道場の私の部屋の本棚に目をやると、ネットワークテラの前身「地球市民 TEREA PEOPLE」の一九八七年春号がありました。今のネットワークテラとは違ってB5版五〇ページの雑誌ですが、いろんな方から寄稿が掲載されています。その中のひとつに事務局長の私も書かせていただけており、十八年前にどんなことを書いていたのかと目を通して見ました。八七年と言えば、タイに行きだした翌年のことです。何事も原点に戻るの大切で、私自身が書いた文章から、現在に通じ、学ぶべきところが多々ありました。タイトルは「これからの国際交流 真のゆたかさを求めて」です。以下、内容を抜粋してみます。

(一) 国際交流と我々の生活 我々の生活は正に世界の諸関係の真つ只中にあるのであって、それゆえに受身ではなく積極的にこの国際化に取り組む必要がある。この国際化への取り組み自体が我々の生活をより向上させるものでないとすれば国際交流など必要の無いものである。ここで、国際交流と人づくり、町づくりが密接に結びつくのである。

(二) ゆたかな 現代社会 我々は「豊かな 社会に住んでいる」という。しかし、この「ゆたかさ」は虚像であって実像ではない。学校の荒廃、いじめ、自殺、老人の孤独、若者の無気力、中年の働き中毒、笑いの喪失、無感動などなど飽食日本にすむ我々の心は豊かになつたと言えるのか。何者にも光と影がある。経済的繁栄の裏には、自然と人間の乖離、共同体の崩壊と言つ影の部分がある。これが人間性を喪失させている。我々はこの近代化の影の部分にこそ新しい光を当て、人間性（「思いやり」）を回復しなければならぬ。

(三) ムダをなくそう、ぜいたくをやめよう 東京都で捨てられるごみの中の残飯は、途上国の人々五〇万人の一日分の食料にあたる。世界の人口五〇億人（なんと現在は六四億人）慢性的栄養失調に苦しむものが六億人、北の国々では栄養過多のため進まない自転車を生懸命こいだりタイエット食品の開発が進められている。なぜこんな矛盾が起るのか。問題は、南の貧困は、北のゆたかさと同じに關係があり、我々一人一人の生活自体が南の貧困を作り出しているところにある。ここでも我々の生活と国際交流は密接に結びつく。

(四) 欧米偏重から第三世界、特にアジアの視点を過去一世紀半の近代化「西洋化」の中で我々が失つたものは大きい。世界の四分の三を占める白人以外の人々とも平等に付き合わなければならない。そして、我々の生活はこれらの人々とより密接に關わっていることは身の周りの品物の原材料がどこから来ているかを知られば一目瞭然である。

(五) 日本人はアジア人か 我々は「アジアあつての日本」と言つ事実をかみしめねばならない。そして発展や進歩の尺度を経済だけでなく、いや、それよりもむしろ、金で買えないものに求めなければならない。でなければ、いつまでたつても日本国内の社会問題や教育問題も解決できないし、アジア蔑視、途上国無関心は変わらない。

(六) 国際理解、親善、交流から開発協力へ 『世界あつての日本』と言つことを自覚するとき、日本人自体の死活問題として南北問題解決に向けて何らかの行動を起こしていかなければならない。世界には自立自助による開発を行うために援助協力を必要とする人々が四〇億近くもいるのである。それらにたつてはただの親善ではなく協力がいるのである。それは農村の崩壊であり、都市への人口集中であり、都市のスラム化、都市機能の麻痺である。したがつて、根本治療は農村の崩壊を防ぐ、つまり農村開発である。農業こそ人間生活の根本である。そこには自然と人間の一体感があり、助け合う人間關係が

存在する。

(七) 民間から民間へ 途上国で最も援助協力を必要としているのは、政府の手の届かない一般大衆である。政府間協力ではキメの細かな活動は出来にくい、そこで、我々一般大衆の出番となる。

(八) 地域から地域へ 要は人間と人間の交流である。

(九) 「詰め込み教育」から「地球共感教育」へ 国際協力を進める上で、教育の持つ意味は計り知れぬほど大きい。世界の現状、それを引き起こした構造を教えることはすべての大人たちの義務である。何のための勉強か、何のための進学か、能力とは何か、何のための学歴かを問い直さなければならない。真の国際感覚とは、障害者などの社会的弱者をも含めて被圧迫少数者として自分と異なるものに対する思いやりの気持ちを持つことである。恵まれない人々を助けるのは、人間の最低の義務であることを大人一人一人がはつきりと自覚し、小さいときから子どもに教え込んでいく事が、社会問題ならびに国際問題解決の大きな鍵となる。

(十) 模索から行動へ いくら考えていても、いくらいいことをしゃべつても書いても、実際に形を作らなければ何の役にも立たない。地球上で南北問題があること、国内にも南北問題は存在する。都市と農村の問題がそれである。我々は南、または農村から、我々が失つた心と自然、安らぎ、人間性を学び、かわりに、北、または都市からは、物、金、技術などを提供できるだろう。まずは、外国人、少数者との接点を持つこと。とにかく自分で参加してみることが必要だろう。

いかがでしたでしょうか。これから現在までの間に、テラアピール「人間の持つべき文明」、テラトピア、循環型共生社会の創造へとつながつて行きます。読み返してみても、十八年の歳月が嘘のよう、時と所は変わつても、今でも首尾一貫同じことをやり続けているようです。

『地球市民運動』と難しい漢字の名前は忘れても、みんなが幸せになつていきますよう自分なりに出来ることをこつこつとやつて行くことではありませんか。ではまた次回お目にかかりましょう。



(平成十七年十一月二十五日)

地球市民運動

人 社会 自然 の相互依存を十分認識し
すべての いのち を慈しみ 強く 優しく 豊かに 美しく育てる

第6話「プロジェクトの始まり」

ミャンマープロジェクトマネージャー 大野 博之

我々はミャンマー連邦ポオー地域で様々なプロジェクトを行っているが、村の開発や農業支援事業に関しては一貫して同じスタンスを取っている。それは、自らの力で立ち上がろう、自分たちの村は自分たちの力で良くして行こうという意思の高い村でしか事業を行わないということである。

それでは、具体的にそれはどのような村だろうか。村からは我々のプロジェクトに対して、事業実施の依頼が入ってくる。その場合のインタビューで具体的な点が見えてくる。特に村の問題点は何であるかを深く聞き出すことが重要である。村に入り、村の問題点は何かと訊くと多くの村は「資金がない」ことをあげてくる。自分たちの村がどんなに頑張ろうと思っても資金が無いために何もできないというのだ。その時私は「資金がないのは村の問題ではないでしょうか？資金とは村の問題を解決するための手段であって、資金が無いというのは解決手段の一つがないだけではないですか。資金が無いからできない何かがあるはずですよ。それが何か考えて見ましょう。」と話すことにしている。これ話をすると、すぐにわかる村がほとんどで、村の問題を抽出し、それを解決するための資金を作るためにどうしたらいいのかを話し合うことになる。そうすれば村の人たちのやる気を高め、当事者意識を持ってもらい、プロジェクトを展開しやすくなる。しかしまれに、私の話にはほとんど聞いている村があり、この場合骨の折れることになる。今まで村の問題という点について自分たちで考えてこ



事業についての説明中

なかつたケースがほとんどなので、改めて自分たちで思考することができないのだ。村には困った事はあるのだが、それを問題だと意識してきていないのであるだから、幾らこちらが呼び水を用意してもなかなか出てこないのである。問題が村人自身の中で顕在化しない場合、それは問題解決にはいたらないので、事業を行う場合難しくなる。

さて、村が自分たちの問題を自分たちで明確に認識すれば、私たちの事業について説明する事になる。その前に、必ず我々が事業をする場合の村の条件を3つ挙げる事にしている。TPAはコミティと事業を行うのでコミティが責任を持つ。村のコミティが中心になって共同農園を行う。TPAの農民研修に参加する。である。この3点は村のコミティが村人と一緒に自分たちで村を良くしていこうという意識がないとなかなか受け入れにくいものになる。何故なら、の条件は事業を失敗したらコミティが責任を取らなければならないとなると、半歩可な気持ちでは取り組めないという事になる。また、の条件の共同農園はコミティだけがやろうとしても不可能であり、村人の参加が必要である。つまり、村人全てが、この事業に理解を示すように説得しなければならないという事になる。そして、の条件はTPAの研修は10日間あり、それに参加するという事はその間は自分の仕事ができなくなる。また、有料なのでお金を払わなければならない。新しい農業技術を学べるにしても、村のために学んだという高い意識がなければなかなか参加できないものである。私たちはこの3つの条件を受け入れてもらえることが、村の自立発展の意識の高さを図る事ができると考えている。

私はこの難しい条件を村の人たちが決断しやすいように、TPAがポオー族の地域で事業を始める際にポオー100万人のリーダーであるアパー・ウアウンカムティと話したことを紹介する事にしている。それは次の通りだ。『私たちTPAがこの地域で活動を始める事をアパー・ウアウンカムティと話したときに彼は「皆さんがこの地域のために協力してくれることは本当に嬉しいです。しかし、ただお金を村にあげるだけの協力はしないでください」と話しました。ポオー地域は貧しい地域なのでどの村もお金は欲しいはずなのに「お金を要らない」といわれた事に驚いて、何故ですかと尋ねました。そうするとアパー・ウアウンカムティは「食事はテーブルまで誰かが運んでくれます。しかしそれを食べるためには自分で口まで運ばなければなりません。誰かに口まで運んでもらったら、今度は自分で食べる事を忘れてしまいます。食べ方を忘れてしまっただけで生きていく事はできなくなります」と話しました。そして、「もし、お金だけを欲しいという村があったら、その村には協力はしないでください。もし、村人が自分たちで自分たちの村を良くするために一生懸命頑張り、それでもどうしても立ち上がれない村があったら、そのような村に協力をしてください」と私たちにお願いされました。私たちはアパー・ウアウンカムティと自分で立ち上がる村の協力をさせていただきますと約束しました。ですから皆さん、私たちと一緒にアパー・ウアウンカムティとの約束を守ろうではありませんか。』アパー・ウアウンカムティは、ポオー族の人々から絶大なる尊敬を集めている人だ。なので、この話を聞いた村人は大きく頷きながら、決意を新たにすることが多い。



問題解決にむけて村人との話し合い

ばなければならないものが多くあるように思えて仕方がない。したがって、我々TPAはこの国で単に協力をしているのではなく、学びあっているのだと考えている。そしてそれこそが、本来の市民団体であるNGOの活動そのものなのではないか、そしてそれが政府系国際協力機関（国連やJICAなど）との棲み分けとしての我々の存在意義があるのではないかと考えているのだ。（了）



ミャンマースタディツアー 2005

8月23日より9月1日までの10日間、当会が行っている事業視察及び現地での交流を目的としたスタディツアーを実施しました！

- 《スケジュール》 8月23日：日本出発⇒タイ経由ヤンゴン到着
 8月24日～8月26日：タンボジー到着、研修センター視察、インレー湖視察
 8月27日～29日：ナウンカ村到着、高校視察、ホームステイ
 8月30日：ハムシー寮見学、移動 8月31日～9月1日：ヤンゴン出発⇒バンコク経由日本到着

主な訪問先から

8月24日 タンボジ研修センター での農作業



ここでは土着菌の利用、殺虫剤などの科学農業を一切使わない等、自然の循環の中で農業を行う「循環型農業」の実践に取り組んでいます。

二日間の滞在中は私たちも寮生たちと一緒に朝五時半に起床して畑を耕し、土着菌を利用した肥料をつくるなど「循環型農業」を実際に体験しました。私たちがへっぴり腰で畑を耕すのを尻目に、慣れた手つきで畑を耕す寮生たちの姿はとても印象的でした。

寮生たちとの交流会では歌や踊り、寮生とメンバーの相撲対決を行うなど楽しいひと時を過ごしました。

8月26日 インレー湖視察



標高千メートルを超える山々に囲まれた盆地に南北二十キロあまりにわたって広がるインレー湖。水草を集めてつくられた浮島に少数民族であるインダー族は家を建て、野菜を栽培したり魚を捕ったりしながら暮らしています。私たちは湖をボートで移動しながらパゴダ見学、シヨッピングなどを楽しんだ後、湖に沈む美しい夕日を背に宿泊するホテルへと向かいました。湖上に建てられたホテルはまるで一つの島のように、湖上に暮らす人々になつたような気持ちを味わうことが出来ました。

8月27日～29日 村でのホームステイ



村の中心から歩いて五十分程のところにある民家にホームステイ。ホームステイ先は各自別々で、一人一言葉の通じない人たちの家に泊まることにみんな少し不安を覚えていたようです。しかし、ふたをあけてみれば、その不安はどこへやら。ツアー前に配布された用語集を片手に身振り手振りで家族と打ち解け、二日間のホームステイはあっという間に過ぎてしまいました。ここでも「前世は皆親兄弟」とも言うべき価値観に触れることができました。

8月30日 ハムシー高校寮での 歓迎会



歓迎会のあるハムシー寮に着くと、とても大きな屋根付きの舞台が用意されていました。たった一日で建ててしまつたみたいです。百人をゆうに超える人びとがあつまり、私達は相撲や空手、日本の歌などを披露しました。ハムシーの生徒たちが披露してくれたのは、主に歌と踊りで、くねくねした手の動きが特徴的でした。最後には、みんな一緒になって踊り、とても楽しかったです。

参加者の感想

ミャンマーの感想

森田 康彦

ミャンマーの印象を述べたいと思います。ミャンマーの人々には仏教の教えが体に浸透している人が多いので、私は彼らは温厚だと思いました。また、タンボジやポウ族の人々と触れ合い、話をすることで、彼らの目は純できれいだと思いました。そして、彼らと目を見て話しているとき、目をそらしてしまう自分がいました。たぶん、無意識に私の心は邪だと感じたからなのではないでしょうか。悪いことをたくさん知っているのか、貧富の差を導いているのは私たちであるのか……。



「温厚で純粋なミャンマーの人々をほっといてやってくれ」と叫びたい。資本や物が彼らの心を変えてしまうからである。悪は資本を求めてやまなかつた国のせいであると思う。

観光などの表層の部分と農村でのホームステイのような深層の部分で十日間というちょうどよい時間の中で見て、感じる事ができて本当によかったです。今後、長期休暇を利用して今回のようなスタディツアーにどんどん参加していきたいです。ほんとうにありがとうございます。(一部抜粋)

「感謝」

吉村 洋祐

楽しい旅であったと同時に、いろいろなことを考えさせられる旅でした。電気もほとんどない、水しかでないシヤワー。日本ではキャンプの時にあるかないかといった場面に幾度となく遭遇しました。こうした場面に遭遇し、誰かが発電しなければ、誰かが農作物をつくってくれないければ、自分生活することすらできないという事実を改めて思い知らされました。

そして、そのことに改めて気付いたとき、ミャンマーの人たちが私たちが当然だと思っているものに対し、日々感謝し

生活していることに本当に感動させられました。

今あるものに対して感謝ができる彼らを見習いたい。私はそう強く感じました。日々感謝するという当たり前で大切なことだけでも、日本ではなかなか気付くことができないものにミャンマーでふれることができました。

スタディツアーに参加して

野口 尚子

恥ずかしながら、最近までミャンマーがどこにあるのかも知らなかった。今回のツアーではたくさんの人に会った。いろいろなことを知った。地球市民の会がどんな活動をしているのか。どんな問題があつて、どんな顔の人たちがどういふふうに暮らしているのか。そこから見える風景がどんなものなのか。

いろいろな事も考えた。物質的な豊かさや精神的な豊かさはなぜ反比例するのか。欲をコントロールするのはなぜ難しいのか。幸せとはどういうことか。皆でああだこうだと話してもこたえは見つからなかった。でもそれでいいんだと思う。

ミャンマーはもう知らない国ではなくなった。忘れようとして無理だ。行く先々で余興の相撲が大ウケだったこと、日本人は皆へっぴり腰でちつとも農作業の役に立たなかつたこと、ポオの村で見上げた夜空が呆れるほど見事な星空だったこと。何と言つてもあの国には家族がいる。別れ際、「また帰ってくるのだから泣く必要はない」と笑顔で送り出してくれた人たちにまたいつか会いに行きたい。

ミャンマーへ行ったこと

松田 洋介

今回のスタディツアーでの一番の宝物は、多くの出会いです。タンボジの高校生とハムシー村の人々、現地の大野さん一家などミャンマーの人達、今回のツアーのメンバーなど本当に多くの出会いがありました。私は、今回の旅をこれからの人生を考える転機にしようと考えていました。働いていた頃、社会人として生きていく為の心の在り方や将来に、疑問と不安を多く抱えていたからです。しかし、ミャンマーでの十日間は、それらを少なくとも一瞬吹き飛ばしてくれました。タンボジの高校生たちは、私より遙かに厳しい境遇の中で、いつも笑顔で生活していたし、ハムシー村の家族たちは、毎日生きている事に感謝しながら暮らしていました。彼らは、私たちが普段気にも止めていないような小さなアリガトウを生きる喜びに変えて生きていました。今自分が小さなことで悩んでいることが何だかバカバカしく感じられ、心が洗われる様な感動を覚えました。またお金を貯めて、そう遠くない日にミャンマーで待っている第二の家族たちに会いに行こうぞ！

(一部加筆修整)

スタツア参加者の一人、小谷博光さんは現在地球市民の会のインターン生としてミャンマーで研修を受けています。今回は感想文を掲載することができませんが、来年の帰国報告にご期待ください！





SRI LANKA



スリランカ津波被災者支援報告

1年前を振りかえって

昨年末に起きたスマトラ島沖地震にともなうスリランカ津波被災者支援については、ご協力を賜り誠にありがとうございました。皆様からいただいた支援金は総額296,994円になり、当会が1997年より奨学金を提供しておりますスリランカのゴール市にあるサンガミタ女子高校の生徒の中で津波で家屋や親を失ってしまった子供達14名に津波被災支援金として提供することができました。改めまして皆様の心のこもったご支援に心より感謝申し上げます。

あれから1年が過ぎようとしておりますが、現地はまだまだ復旧の最中です。当会の現地の協力者であるニヤンタ氏によると、奨学金を受け取った彼女たちの表情もまだ暗いとのこと。今回奨学金を受けた生徒の皆さんが当時を振り返ってくれました。

K T インデュシャーンティ さん(14才)



津波のために、私達は全てのものを失いました。

津波の日、母だけが家におり、彼女は何か木のでっぺんに登って難を免れました。現在私たちはゴールにある避難所で暮らしています。

ルワン クマーリ ディシルワ さん(17才)



12月26日、私の家族はみんな逃げる事ができ、命拾いをしました。私たちの家は津波に破壊されてしまいました。その後私達は7月から政府によって提供された仮設住宅に住んでいます。2006年のアドバンスト・レベル・テストを受ける事ができることを望んでいます。

ムディダ ダルシャニ テュデュワゲ さん(19才)



津波が来ていた時、私と母は家にいました。私たちは最初の波は免れることができましたが、2度目の波が来ていると聞き安全な場所へ走りました。

私たちの家は完全に津波によって破壊され、私は学校へ行くために知人の家に住まなくてはなりませんでした。私の母は今年の4月に仮設住居に住むまでに被災者キャンプにいました。昔のように海に近いところに住んでいるので大変怖いです。

私はアドバンスト・レベル・テストのために科学の勉強をしていましたが私の本は全て津波で流されてしまいました。その後、ある僧侶が被災した人のために新しい家を建設しました。しかし、私と母はまだ怯えながら暮らしています。

P K G ナディーカ プシュパクマーリ さん(17才)



津波が来たとき私達は幸運にも家から十分遠い場所におり、怪我をせずすみしました。でも私たちの家は完全に破壊されてしまいました。その後私達は避難所で暮らしています。しかしその避難所から学校に通うにはいくつかの困難があります。その後わたしはおじの家にくらしており2006年のアドバンスト・レベル・テストを受けられるよう望んでいます。

アドバンスト・レベル・テスト：日本の大学入学試験と同じ意味を持つ。全ての科目に合格し、高得点を取った人から全国の大学・短期大学に振り分けられる。



津波被災支援金の受給者(14名中贈呈式に出席した9名)



津波被災支援金の贈呈式の様子

ええじゃん! ASIAN ふえすていばる

去る、平成17年10月29日(土)、佐賀市の地球平和道場におきまして、地球市民の会チャリティーイベント『ええじゃん!ASIANふえすていばる』を開催いたしました。

今回のイベントは、地球市民の会の会員さんはもちろん、これまで地球市民の会や国際協力などにあまり馴染みのない一般の方々にも、地球市民の会の活動を知っていただき、交流を深めていただくことを目的に開催いたしました。

当日は、第一部に地球市民の会の事業報告会、第二部に懇親会とバザー、パネル展示会を実施いたしました。

懇親会では、スタッフとボランティアの方々による手作りアジア料理とアジアのビールを販売、またバザーでは会員さんなどからご提供いただいた家庭用品や食品を販売いたしました。



パネル展示

一日を通して大変多くの方々に足を運んでいただき、第二部は特に賑わいました。

大人の方はもちろんですが、古賀英語道場・空手道場に通っている子どもたちも多く参加してくれました。

参加してくださった方々にお話を伺ったところ、「バザーは安く一杯買ってしまった」、「料理がおいしくて食べ過ぎてしまった」といった嬉しい感想をたくさん頂きました。

また、イベントの開催にあたり、事前準備や当日のボランティアスタッフの方々、各料理をご担当くださった方々、バザーの商品をご提供くださった方々など、本当に多くの方々のご協力をいただき、手作り感にあふれた温かいイベントになりました。

スタッフ一同心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



会場の様子



当日のメニュー紹介

アジアのカレー

スリランカカレー
ミャンマーカレー・チェッターヒン
タイ・グリーンカレー

アジアのおつまみ

ゴダンバラ・ロティ(スリランカ)
バナナ春巻(タイ)
ガイヤーン(タイ風焼鳥)
春雨サラダ(タイ)
タピオカボール(ミャンマー)



当日の料理です!

この日の売上げは、タイ・スリランカ・ミャンマーでの活動に充てられます。

はじめまして。この度、ミャンマー事業ヤンゴン調整員の後任として、首都ヤンゴンに赴任することになりました。前職まで東京で働いていたので、今回佐賀に拠点を置く「地球市民の会」で働くことになり、新しい土地での新しい経験を楽しみにしています。

私のミャンマーとの出会いは六年前になります。ある日、ミャンマーに行ってみようと思いい立ち、四週間かけてミャンマー国内を周りました。ヤンゴン国際空港に初めて降り立った時の独特の感覚を、今でも良く覚えています。旅行中に会ったミャンマーの人々や風景の印象はとても強く、それ以来、いずれミャンマーに関わる仕事をしたいと思いつけていきました。

今回のミャンマー行きが決まり、今は期待でいっぱいです。もちろん気楽な個人旅行と違い今回は責任も重いです。ミャンマーと日本それぞれの地域づくりにつながる活動のサポートが出来るよう、がんばって来ようと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

新ヤンゴン調整員紹介





さが国際交流・協力フェスタへ参加しました!



10月16日に佐賀県国際交流協会の主催で「佐賀国際交流・協力フェスタ2005」が開催され当会も参加しました。この催しは、県内で国際交流・協力分野の活動に取り組んでいる民間団体の紹介及び県民への理解を目的として毎年行われています。

当日は「1日限定アジアカフェ!」ということで地球市民の会の海外(ミャンマー、スリランカ、タイ)での活動の様様を紹介したパネルの展示とともに、各国のクイズにチャレンジしていただき、スリランカとミャンマーのお茶、タイのドライフルーツを楽しんでいただきました。150名以上の方にブースに参加いただきました!皆様、ありがとうございました!

当日出題したクイズです!ぜひ挑戦してみてください!

クイズタイ編

タイの乾季に、時ならずパラパラと降る雨の事を果物の名前を用い「xxの実を洗う雨」と言います。この果物の名前は何?

- A: ドリアン B: マンゴー C: アボガド D: グアヴァ

タイ語で「怒気を含んだ声」を「xx色の声」と言います。ズバリ何色の声でしょう?

- A: 赤色 B: 黄色 C: 青色 D: 緑色

タイの国旗の色には意味があります。紺は国王、赤は民族、さて白は何でしょう?

- A: 宗教 B: 仏像 C: 像 D: 寺院

タイの屋台で気軽に食べられる、日本のラーメンにも似た麺があります。この麺の原材料は何でしょう?

- A: 小麦粉 B: そば粉 C: パン粉 D: 米粉

クイズミャンマー編

ミャンマー人が決して口にしない動物の肉があります。それは何の肉でしょう?

- A: 馬肉 B: 豚肉 C: 牛肉 D: 鶏肉

ミャンマーでは木の幹をすりおろし日焼け止めに使います。その日焼け止めに何と呼ぶでしょう?

- A: サトウ B: イケダ C: ヤマダ D: タナカ

ミャンマー語の数字の5の発音はどれでしょう?

- A: ンガー B: ドリヤー C: フニヤー D: アギヤー

ミャンマーの国旗で稲穂は農民、星はミャンマーの州と管区を表します。さて歯車は何を表しているでしょう?

- A: 元首 B: 労働者 C: 軍政府 D: パゴダ

クイズスリランカ編

スリランカは鉱産物産出国でも有名です。が、唯一採れない宝石があります。それは何でしょう?

- A: ダイヤモンド B: サファイヤ C: ルビー D: キャッツアイ

スリランカではけちな人を「ローバ」、嘘つきを「ボルカーラ」と呼びます。さて、良い人は何と呼ぶでしょう?

- A: マツダ B: ホンダ C: トヨタ D: ニッサン

スリランカはお茶の生産で世界的に有名です。そのお茶は何でしょう?

- A: 紅茶 B: 緑茶 C: ウーロン茶 D: 加藤茶

国名のスリランカには意味があります。どんな意味でしょう?

- A: 安らぎの島 B: 神の住む島 C: 天国に近い島 D: 光輝く島

ボツワナ～砂漠のキャンパス②

「モチュディ村にて」

古賀悦子

モチュディ村で、高校の美術教師として活動を始めて、1年になりました。学校へ向かい、毎朝6時過ぎに家を出ます。通勤バスの車内には、朝っぱらから陽気なアフリカ音楽が流れています。学校へ着くと、校門では先生が、生徒の服装検査をしています。「シャツはズボンの中に入れなさい」「女子のスカートが短い」など、なんだか日本と似ていますね。

授業が始まると、まず生徒に画材を配ります。騒ぐ生徒の声より大きな声で「静かに」と怒鳴っても効果なし。歌ったり踊ったりする生徒もいて、てんやわんやです。赴任時に驚いたことには、ここでの絵画は、写真の複写が中心でした。写真の上に薄紙をひいて、上からなぞる作業。そこへ、創造性のある絵画制作を取り入れることが私の目標の一つです。

昼食の時間になると、生徒はプラスチックの皿を持って食堂に並

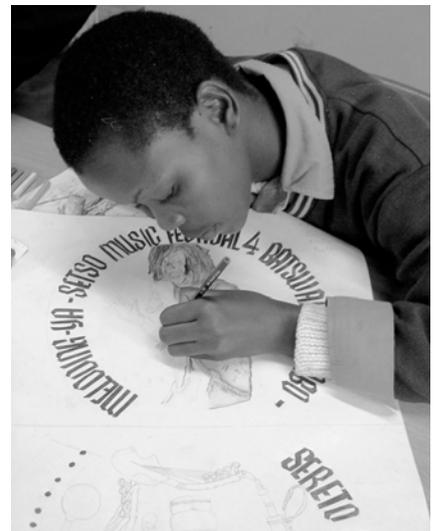
びます。トウモロコシの粉をゆでた主食に、おかずは肉や野菜を煮たもの。味の評判はいまひとつ。ここの食文化は本当に素朴で、ほとんどの料理が、塩で煮る、というだけです。今のところ学費や教材費、給食はすべて無料ですが、来年から保護者の一部負担になるそうです。

帰りのバスに乗りこむと、車窓に映る、牛やヤギたち、走り回るニワトリ、ゴミだらけの道端、くずれたブロック塀、破れたかやぶき屋根、人々の笑顔、無限のサバンナ、大きな夕暮れ。ここでは、自然は荒々しく永遠で、人々の暮らしが小さく、はかないように見える。

ボツワナでは、絵画の歴史も浅く、美術教育も始まったばかり。この地平から、何を創造し、生み出していくのか、同僚や生徒たちとともに試行錯誤の日々を送っています。



生徒作品（自画像）



ポスター制作中の生徒の横顔

古賀悦子さんは青年海外協力隊美術の職種で現在ボツワナ共和国で活動中です。佐賀県佐賀市出身。

お疲れをまですした！

インターン終了報告

今年四月から約八ヶ月間、地球市民の会のインターンとしてがんばっていた吉村洋祐君の任期が終了しました。

インターンの感想



本当に貴重な経験をさせていただきました。会議で色々な人の意見を聞いたこと、人の思いを英語に訳すということ、自ら考え企画して実行に移すということ、私が経験できたことの例を挙げればきりありません。

そのほとんどが私にとって初めての経験で分からないことだらけでしたが、これらを経験は自分に何が足りないか、自分には何ができるのかということを改めて考える機会を私に与えてくれました。このような機会を得ることができたことは自分にとって大変意味のあることだと感じています。

この八ヶ月間、私をサポートしてくださった方々、本当にありがとうございました。なんだかんだ言っても、一番よかったのは理屈ぬきに楽しかったということです。また、地球市民の会に遊びに行きますので、その時はよろしくお願いします！

今日も



(スワヒリ語で“ゆっくり、ゆっくり”)

タンザニア便り その2

牛嶋 啓道 Hiromichi Ushijima

目本の皆さん、Hamjambo? (スワヒリ語: ごきげんいかがですか?)。私がタンザニアに来て1年半が経ってしまいました。今回は、タンザニアについて少しご紹介したいと思います。

タンザニアというと皆さん名前は良く聞いたことがあるかと思います。日本でもマラソンのテレビ中継で、タンザニアの選手が活躍している姿を、観たことがあるかと思います。でも実際にアフリカのどこにタンザニアという国があるかということはあまり知られていません。一度地図をめくって調べてみるのもいいでしょう。タンザニアはアフリカ大陸の中東部に位置し、赤道よりも少しだけ南側にあります。東はインド洋に面し、西はアフリカ3大湖のビクトリア・タンガニーカ・マラウイ湖、北はアフリカ最高峰のキリマンジャロ山、そして内陸部は多くの動物達が生息する自然国立公園等があり、見所満載の国です。赤道近くなのでとても暑いと思われるがちですが、それでもありません。東部の海岸沿いはとても暑いですが、内陸に入ると標高が高いので、気温は下がり、場所によっては寒くてコートが必用なところもあります。タンザニアで1番の都市は、ダルエスサラーム。街には人が溢れ、活気に満ちています。道路には路店が並び、また、交差点では、信号待ちしている車に物を売り歩いて、人の活力がみなぎっています。車は殆ど、日本車。タンザニアの人達には日本車、また、電化製品も日本製が人気があります。日本



東に広がるインド洋

を離れた外国から日本を覗いてみると、日本って改めてすごい国だなーと感じてしまいます。タンザニアは今、発展途上国の一国です。しかし今、海外からの援助、外国からの企業の進出、そして政府の努力により急速に発展しています。町には物が溢れ、次第に人々の生活も潤っています。その中でも携帯電話の普及は著しいものがあります。日本では電話回線によるダイヤル式の電話や、プッシュホン等段階を経て携帯電話が現在一般に普及してしまったことを考えると、この国で電話回線の電話が普及するよりも携帯電話のほうが速く普及しているのを目の当たりにすると、何かおかしい感じがしてしまいます。そんな国の発展とは裏腹に貧富の差も大きくなっていることも事実です。多くの人々が貧しい中、1日1日を一生懸命生きています。いつも陽気で、明るく、毎日楽しく暮らしてるタンザニアの人達を見ると私自身も元気が湧いてきます。そんな中、現在の物の急速な普及と国の西欧化でタンザニア独自の文化、タンザニア人の良さが少しずつ失われていっている気もしています。こんなめまぐるしい変化を遂げるタンザニアの状況が今後どうなるか楽しみに思い、またこの国に住み、時代の変化を間近で観ることのできる今の自分を幸せに感じています。

牛嶋さんは現在青年海外協力隊の理数科教師として現在タンザニアで活動中。12月帰国予定。



Ngorongoro 自然保護区 (写真はヌーの群れ)

協力者一覧

平成17年6月1日から9月31日までの集計です。

新入会員

これからよろしくお願ひします。

【団体会員】

みどりや茶舗

【維持会員】

久恒 力也

【正会員】

田中 哲生・藤木 祐太

【維持会員】

太市原次郎・井戸 敏三

小関 哲・川副 春海

永富 丈・山口美佐子

【学生会員】

渡邊真紀子

【少年会員】

山口 裕太

継続会員

ご継続ありがとうございます。

【団体会員】

株式会社 佐電工

【正会員】

安心院晶子・天ヶ瀬三津代

井上 信宏・植田 和実

愛媛地球市民の会

大島 泰介・大石 竜基

岡本麻里子・川崎 千穂

菊野 善久

キャサリン オハットニッキー

桑原 允彦・古賀 和夫

古賀 洋子・古賀 正也

小山 恭子・砂田 昭彦

鈴木 良一・田口 光雄

高尾 剛

地球市民の会ぎふ

中島 法道・中村 泰介

中本 正一・永淵 義久

野本 正彦・原 利幸

平井 幸香・広瀬 泰則

藤原 克子・古川 康

馬郡 有子・松尾雄次郎

三上喜美子・諸井 政司

横島 龍一・吉村 典子

【学生会員】

古賀 友大・樋口 美香

弥富 雅信

【講師会員】

大野 伸寛・高田 理恵

山崎 弥生

地球市民奨学金

これからよろしくお願ひします。

【タイ クーキャオ中学校】

阿部 尚子・阿部 礼子

伊豆 哲也・池田 瑛

井上 祥子・上田美智子

緒方 賢義・亀井 初美

川原田勝子・紀伊 保男

古賀 洋子・櫻井 愛子

式町 伸子・末次 摂子

藤崎 紗織・豆田美穂子

宮崎 照代・森永 勝馬

【タイ クーキャオ高校】

式町 伸子・満岡 聡

【ボーゲウ校】

唐沢 利夫・佐々木サキ子

式町 伸子・寺澤 順子

土井 敏弘・林 和恵

龍 千秋・豆田美穂子

山口ハツエ

書損じはがき・古切手 他

いつもありがとうございます。

有限会社あどさんらいず

伊藤 節子・NHK佐賀放送局

円城寺久好

九州カタン系株式会社

兼平 翔・株式会社ミゾタ

小石原和男・古賀英語道場

佐賀県国際課

佐賀県立盲学校

佐賀リコー株式会社管理課

佐久間せつ子

正島脳神経外科病院

田中 良亮

つつみクリニック

土井 敏弘

林酸素商会株式会社

森永 勝馬・吉村 薫

山内 里紗・龍 千秋

寄付金

ご寄付ありがとうございます。

【事務局支援金】

池田 瑛・久保 信幸

坂本 舞・砂田 昭彦

富野ともえ・平野 喜幸

活動報告・予定

平成17年8月1日から12月3日までの報告です。

活動報告

8/1 (月)

ヤンゴン調整員面接

場所：地球市民の会 事務局

地球市民の会理事会

モンゴル車輛贈呈式

地球市民の会 常任理事会

映画「人間の翼」上映10周年

終戦60周年特別上映会 場所：アバンセ

ミャンマースタディツアー出発(~9/1)

地球市民の会 ミャンマー委員会

フジテレビ系列「ヒューマン九州21」放送

※古賀会長ドキュメント番組

テレビ大阪「ボランティア21」番組収録

地球市民の会 理事会

地球市民の会 ミャンマー委員会

場所：熊本れんげ院

NPO養成講座 活動報告

場所：アイスクエアビル

国際交流協力フェスタ 場所：アバンセ

地球市民の会 ミャンマー委員会

場所：地球市民の会 事務局

地球市民の会 理事会

場所：地球市民の会 事務局

ええじゃんASIANフェスティバル

場所：地球平和道場

ヤンゴン調整員 長谷川さん来佐

ヤンゴン調整員 長谷川さん国内研修

シニア海外ボランティア出発前表敬訪問

土井理事 場所：佐賀県庁

地球市民の会 ミャンマーモニタリングツアー

一出発 (~11/14)

ヤンゴン調整員 長谷川さん ミャンマーへ出発

佐賀新聞里親全面広告掲載

福岡黎明ライオンズクラブへ感謝状贈呈式

ミャンマーモニタリングツアー 帰国

青年海外協力隊17年2次隊出発前表敬訪問

場所：佐賀県庁

大野ミャンマープロジェクトマネージャー

一時帰国

ミャンマー委員会

地球市民の会 理事会

佐賀県国際交流協会主催

大野マネージャー講演会

活動予定

12/12 (月)

大野ミャンマープロジェクトマネージャーミ

ャンマーへ出発

モンゴル国立子供芸術センター・ ワールドピースパークに車輛を贈呈

佐賀トヨベツト株式会社、アジア・アフリカ環境協力センター、そして地球市民の会の想いが一つになり、八月にモンゴルの国立子供芸術センターに四輪駆動車を寄贈しました。ここでは、七歳から十四歳までの多くの孤児が色々な技術を身に付けるために学んでいます。現地では道路事情が大変悪いために、急病の子供たちを運ぶ時などに四輪駆動車が不可欠なのです。今後この車は子ども達の命を守るために生かされていくことでしょう。



車輛贈呈式の様子

(右：佐賀トヨベツト株式会社・代表取締役 内田健氏)

新古賀で買物すれば得した気分!

お客様に そう言われて 45年。ぜひ一度ご来店下さい。

お安くして安心。 買って安心。

取扱い商品

- 呉服
- 時計
- 貴金属
- テレビ
- ビデオ
- カメラ
- ステレオ
- パソコン
- デジタルカメラ
- ブランドバッグ
- 商品券
- などなど

ディスカウント・リサイクルショップ・商品担保貸

新古賀

佐賀市松原3丁目(日差さん通り) ☎(0952) 22-7298(代)

FAX(0952) 25-5767 ☎(0952) 22-7298(代)

営業時間/AM9:00~PM9:00 定休日/第1・第3・第5木曜日

●その他何でも相談下さい。●各種クレジットもご利用できます。●銀一報下さればお伺いします。

地球市民ネットワーク

北海道地球市民の会

〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197
会長 / 阿部功 事務局長 / 新保知博
TEL・FAX : 0133-74-1296

地球市民の会ふくしま

〒963-8681 福島県郡山市喜久田町卸1丁目120-1
(株)石黒
会長 / 事務局担当 石黒秀司
TEL : 024-959-6426 FAX : 024-959-6577

地球市民の会東京

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13
信州会ビル4F (株)ナチュラル内
会長 / 津川宏幹 事務局長 / 青木高広
TEL : 03-3662-0331 FAX : 03-3662-0400
E-mail : aoki@nun.co.jp

地球市民の会かながわ

〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203
会長 / 松澤幹治 事務局担当 / 近田真知子
TEL・FAX : 045-622-9661
E-mail : port@tpak.org

地球市民みえの会

〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターパレス3F
津市市民活動センター内
会長 / 伊藤洋之 事務局担当 / 秋葉幸信
TEL : 059-226-5700 FAX : 059-224-8911
E-Mail : miemiemiemie21@hotmail.com

地球市民の会ぎふ

〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1 竹花園内
会長 / 森幹治 事務局担当 / 平井八重子
TEL : 058-391-5415 FAX : 058-391-8600

愛媛地球市民の会

〒790-1121 愛媛県松山市中野町甲640
はばたき授産園内
会長 / 篠崎和夫 事務局担当 / 丹生谷宗久
TEL : 089-963-3772 FAX : 089-963-3795

地球市民の会福岡

〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4
(株)増屋内
会長 / 増田誠司 事務局担当 / 西村和寿
TEL : 092-801-5888 FAX : 092-801-5789

北九州地球市民の会

〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14
中央会館2F
会長 / 河野一郎 事務局担当 / 大山研児
TEL : 093-521-8181 FAX : 093-551-2296

ネットワーク・テラ 8・9・10・11・12月号 VOL.121

発行：特定非営利活動法人 地球市民の会
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
ホームページ : <http://tpa.nk-i.net>
E-mail : office@tpa.nk-i.net
TEL : 0952-24-3334 FAX : 0952-24-7321

発行日：2005年12月1日

発行人：古賀武夫

編集人：地球市民の会 事務局

印刷：株サガプリンティング



スリランカ ショダヤ奨学金里親募集!!

スリランカはインド洋の南東に浮かぶ島国で『光輝く島』と呼ばれる。九州とほぼ同じ作りの広さです。

「ショダヤ奨学金」はスリランカにおいて恵まれた才能と強い勉強への意欲がありながら貧困のために進学できない生徒を経済的、精神的に支援するために設けられたものです。皆様の暖かいご支援があれば彼女たちはきっとスリランカを背負って行く人材になるはず。どうかこの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

申込み方法 別紙の申込書に必要事項をご記入のうえ、地球市民の会までお送りください。

協力先 サンガミタ女子高校

期間 2006年1月～2008年12月(2年間)

対象者 2005年入学者 高校生5名

支援額 32,000円

支払い方法 2年分一括納入(32000円×1回)

1年分分割納入(16000円×2回)

振込先：郵便振替 01790 - 3 - 26351

特定非営利活動法人 地球市民の会

通信欄に「ショダヤ奨学金」と記入して下さい。

現金書留の場合：地球市民の会宛てにお送りください。

お問合せは地球市民の会事務局まで!!



編集 後記

あつという間に二〇〇五年もあと一カ月を残すところとなり、今年初めはスリランカの津波支援に続きミャンマーでは新事業が正式スタートするなど地球市民の会としても様々なことがあった一年でした。また、今年始め財政的に厳しいことをお伝えいたしましたところ、多くの方々から暖かい励ましや言葉をいただきました。十月二十九日(土)に行われた地球市民の会のチャリティーイベント「ええじゃん! A I E A N エスライバル」では本当にたくさんの方々の協力を賜りましたこと、改めて心から感謝申し上げます。畑で収穫された農作物をお持ちくださった方、機材を貸していただいた方、当日イベントに時間をとって参加していただいた方、スタッフとして一緒に支えてくださった方々... 本当にありがたございました。毎日の生活の中で、いろいろなものがめまぐるしく変化していきます。その過程で人も組織も変化を求められることがありますが、場合によっては大切に残留しておかなくてはならない部分と、変革し成長させていかなければならない部分の取捨選択は難しいことがあります。大切なモノやメッセージは私たちが思うような見え方や聞こえ方をすると、後には限らないので、後になって後悔を誤ったと思ってしまうこともしばしばです。あの時あえておけばよかったと思っても、悲しいかな一秒たりとも過去にもどることはできませんし、つくり変えることもできません。またまだ未熟な私は今年も何度もそう思った場面がつかまりました。しかし、過去はあくまで学びを得るためのものであって、私達は過去に生きる事はできません。そして未来はまた来ていません。私ができることは、今の場所できちんと精一杯取り組むことです。悩みながらも一瞬一瞬に生きていくこと、一秒後の未来、十年後の未来につなげていきたいと思っております。課題はたくさんありますが、皆様に支えていただいていることを改めて深く感じさせていただいた一年でした。皆様の暖かいご支援を胸に、これからもがんばってまいります。存じますので、今後とも叱咤激励の程よろしくお願ひ申し上げます!

肩書きのひとこと

コタシのこだわり

コーヒーはキーコーヒーのスペシャルブレンドで。 納富
酒は楽しく呑む! 川平

“きつといいことがある。夢はかなうんだ!!”と

口に出して言ってみること..。 西村

なんでも楽しんでやってみること。 吉村

いつも忘れぬ旅心。 池田

今ココ! 山田

迷ったら、とりあえず試してみること。 長谷川